

学生時代に頑張って勉強しました

～第9回先進地研修会～

11月30日、午前の研修先は、新しく開設した「ヤンマーミュージアム」でした。農業ゾーンでは、その昔、人力で牛を使い、鋤と鍬で耕していた田んぼが、今や耕うん機とトラクターに代わり、田植え機まである事に圧巻。技術的進化の歴史を知るに人間の智慧には限界がないとしみじみ感じました。参加者は、体験できる色々な展示物にも挑戦し、同じ参加者同士で得点を競争したり、クレーザー操縦のシミュレーションを楽しんだり、童心に返って、たいへん興味深く、時間を過ごせたようです。



缶バッチ作りに挑戦！（ヤンマーミュージアム）



学生時代に戻り講義を受ける参加者

午後からは、滋賀県立大学へおじゃましました。鶴飼修先生の案内で、学内を見学し、教室を借りて地域をデザインするというテーマで講義を受けました。エコ民家で学生と共に生活されながらの日常は月の電力量15kwh以下におさえ、環境に負荷をかけずに暮らしておられることに感動しました。また、里山のバイオマスを利用し、薪ボイラー薪ストーブを使うなど自治会の協力を得ながら集落の人たちとのつながりも密にしておられるとのこと、地域に根差し、地域に寄り添うこと、そこから地域再生が生まれる事を教えていただき、学生時代に戻って大変有意義な講習を受けることができました。

水辺百選講座

「おらが自慢の水辺探訪」

水辺百選講座が11月2日（土）に20名の参加を得て開催しました。今回も、スタッフとして守山市ボランティア観光ガイド協会から2名の参加をお願いしました。最初の伊勢殿川水辺では、現地にお住いの当NPO法人の会員さんから、水辺の歴史をはじめ、詳細にわたって説明を受け、皆熱心に耳を傾けました。さらに宮城川水辺（馬路石邊神社参道）、吉身川水辺（レンガ張りの三連橋）から旧中山道の高札場跡、水に縁のある帆柱観音（慈眼寺）へとつづき守山川水辺（螢橋）、うの家を經由して中山道街道文化交流館（旧筆忠）で昼食をとりながら、座学と懇談会を行いました。

参加者からは次回もぜひ参加したいと好評でした。



説明に熱心に耳を傾ける参加者

環境フェア

学区民のつどい

環境フェア(9/28、29)・玉津(10/5)、速野(10/20)、守山(10/20)、小津(10/27)各学区民のつどい・市民活動屋台村(11/23、24)に参加しました。守山ほたるパーク&ウォーク、クリーン大作戦(オオバナミズキンバイ除去作業)等のパネル展示、エコクイズの実施をし、参加者には花の苗、もびかクッキーをプレゼントしました。

まだまだ「パイ」の脅威を少しでも理解していただき琵琶湖、赤野井湾の環境を考えるきっかけになればと思います。



クイズに挑戦する参加者のみなさん

守山ほたるパーク&ウォーク 10周年記念 守山ほたるフォーラム

もっと知って！守山自慢のホタル！もっと知って！私たちの活動！



発表の様子

でホタルと向き合っていることに気づき、他団体の発表に、大きくうなずいたり、考え込んだり喜んだり、終始和やかなフォーラムとなりました。

フォーラム後に設けた、昼食をとりながらの交流会でも、ホタルや水環境保全に関わる者同士の様々な話で盛り上がり、楽しい時間を過ごしていただきました。

このほか、『守山ほたる条例改定の内容説明』や『ほたるの住むまち ふるさと守山づくり』の活動助成金贈呈式も行い「泉町・吉身東町自治会・守山ほたる会」に守山ほたるパーク&ウォーク実行委員会より助成金を贈呈しました。



発表の様子

第16回赤野井湾探検会

《赤野井湾をもっときれいにしたいな…》

去る7月14日『第16回赤野井湾探検会』を行いました。2艘の漁船に分乗し、ピエリ横の美崎船溜まりから出港し、恒例のエリ漁体験やニゴロブナの放流、水質調査などを行いました。

守山漁村センターに戻ってから、ブラックバスやコイを解剖し、何を食べているかを調べたあと、ワカサギのかき揚げやシジミ飯などの湖魚料理に舌鼓を打ちました。午後は、滋賀県琵琶湖環境科学センターの一瀬論先生から、午前中に赤野井湾で採取したばかりのプランクトンを、拡大顕微鏡で観察しながら解説をしていただきました。その興味深いお話に、

子どもばかりでなく、大人まで目を輝かせて聞き入りました。参加者から赤野井湾をきれいな姿に戻したいと、感想が寄せられました。



ブラックバスの口を覗き込む子どもたち

ケイティー・ライリーと申します

《アメリカからの留学生を受け入れ》

「あの、私はケイティー・ライリーと申します。」アメリカからの留学生ケイティーさんは恥ずかしそうに日本語で、ご挨拶をしてくださいました。

7月22日から8月25日までの約1か月間、びわこ成蹊スポーツ大学の西野麻知子先生のご紹介で、当法人を訪れた彼女は、事務所2階に住み、毎日ほたるの森資料館へ自転車で出勤(?)するのが日課でした。水に棲む「ホタル」と「オオバナミズキンバイ」に興味を持ち、日本での研修を続けられました。資料館での研究の他にも、様々な豊穡のイベントにも参加し、意欲的に活動され、多くの会員から親しまれていました。現在、ニューヨークの大学に戻り、日本での就職を夢見て勉強中です。



彼女から「がんばりますよ、もう一度みなさんに会いたいで

とメッセージが届きました。